

## 「思い出」

急な用事のできた母に代わって、駅まで妹を迎えに行く。  
券売機の近くの柱に寄りかかって待っていると、  
黄色いスクールマークをつけたバスが、  
ゆっくりとロータリーに入って来る。  
真ん中あたりの窓際の席に、妹が見える。  
他の座席に座る生徒たちの姿も見える。  
誰かとおしゃべりこそしていないが、妹の顔には、  
やわらかい笑みが浮かんでいる。  
バスが停まると、きちんと自分の荷物を持って立ち上がり、  
先生と短い「さよなら」のやりとりをして、ステップを降りて来る。  
それだけの光景を見て、私の胸はじんじんと熱くなり、  
目から溢れてくる涙を、必死でこらえなければならなくなる。  
他のお迎えのお母さんたちに見つからないように。  
妹に気づかれぬように・・・

\* \* \*

私の妹も、すずちゃんと同じ「自閉症」という障がいをたずさえて  
生きています。  
今年で36歳になりますが、すずちゃんと同じく、  
おしゃべりができません。  
妹が思い出を語ることはないのですが、こどもの頃の私は、  
妹にも思い出があるという、  
当然の事実を見逃していたように思います。  
妹には友達がいないと思っていました。  
私は自分こそ、妹の唯一の友達でなければいけないと思っていました。

バスの中には、私のいない妹の世界がありました。  
私の知らない人と、私の知らない日常を生きる妹がいました。  
そのことを思うだけで、20年以上経った今も、  
私の胸はじんじんと熱くなります。

このかみしばいを通じて、私はすずちゃんの「思い出」に触れました。  
お友達がこぐ三輪車にすずちゃんが乗っている絵を、私はやはり、  
胸を熱くして描きました。

この先も、すずちゃんがこの日のことを語ることはないかもしれません。  
そのうちに、誰もがこの日を忘れてしまうかもしれません。  
けれど、それは確かに在りました。

散り散りになった小さな思い出が、  
ほんのわずかな風にも揺れる紙吹雪のように、  
やすみなく降り散る世界。  
そこには、深い苦しみや悲しみとともに、  
決して損なわれることのない喜びと美しさがあります。

## あとがき

このかみしばいは、自閉症の娘、鈴乃を、私たち家族とともに  
に療育を学びながら育ててくださった、保育園の先生方と、鈴  
乃を妹のようにいたわり、仲良くしてくれたお友だちに贈ります。

「すずちゃん、変な顔してー」

「すずちゃん、今日は大あばれだったよ。」

雨の日は機嫌悪いもね」

と話しかけてくれるお友だちが大好きです。鋭い感性で娘の個性をまるごと受け止め、笑ったり見守ったりしてくれているのです。インクルーシブ教育、ダイバーシティ、そんなことばを知らない子どもたちがその原点を教えてくれた気がします。そんなお子さんに育ててくれた保護者のみなさん、先生方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

障害のある子もない子も、のうみそやからだのつくり、成長具合はみんなそれぞれ。これから、いろいろな困難や悩みにつつかるかもしれませんが、子どもたちが、自分やお友だちの良いところに気づき合って、それぞれであることを誇りに、豊かに暮らしていけることを心から願います。

自閉症は、最近では、自閉症スペクトラム=ASD (Autistic Spectrum Disorder) と呼ばれています。スペクトラムとは連続体という意味です。知的障害の度合いやこだわりの強さなど症状の程度がさまざまなので、それをスペクトラム=色の境目のない虹にたとえ、発達障害の総称としているようです。「自閉」という漢字から精神の障害と思われがちですが、生まれつきの脳機能障害です。

このかみしばいは、あくまで娘の鈴乃（知的にも重度の自閉症）の様子を描いたもので、自閉症の方すべてに当てはまるものではありませんが、自閉症理解につながればと思い、裏面の脚注に特徴的な行動についての簡単な説明を入れました。

個人的なかみしばいですが、ちょっと欲が出て、自閉症のお子さんが通う保育園や幼稚園、小学校で読んでもらい、「かみしばいの中のすずちゃんは、くるくるまわるのが好きだけど、〇〇くんは、飛び跳ねるのが好きだね」というように、お話をしてもらえたらいいあと考えるようになり、自費出版することにしました。

イラスト・題字・パッケージ制作は、真鶴にあるアトリエ Bonami さんにお願いました。ことば以外のもの、見えないものの存在を優しく、まっすぐに伝えてくれるイラストが魅力のイラストレーターで詩人の三木葉苗さん、鈴乃と同じ障害を持ちながら、すばらしい色彩感覚を持ち、温かくて印象深い書体を書くアーティスト三木咲良さん、活版印刷、手製本を独学で学び、ことばや絵に最後に命を吹き込んでくれる印刷・製本職人、杉山聡さん。私のつたない文章ながら、すてきなかみしばいに仕上がったのは、この3人のアーティストさんのおかげです。

小さなたのしい支援者である子どもたちが、障害や自分の個性について考えるきっかけになれば、こんなにうれしいことはありません。